

令和6年度第1回

清瀬市災害時の女性と要配慮者等の支援のあり方委員会 会議録（要旨）

1 開催日時

令和6年8月1日（木）18時00分から19時30分まで

2 場所

清瀬市役所2階 市民協働ルーム

3 出席者

- NPO法人 首都圏防災士連絡会
- NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ
- NPO法人 ウイズアイ
- 社会福祉法人 椎の木会
- 社会福祉法人 清瀬市社会福祉協議会
- 清瀬シニアクラブ連合会
- 市長が必要と認める者（公募により選出）

4 傍聴者

0名

5 事務局

総務部防災防犯課

6 会議内容

（1）開会

（2）委員の紹介

委員の紹介を行った。

（3）委員長あいさつ

委員長による挨拶を行った。

（4）事務局の紹介

事務局の紹介を行った。

（5）報告

委員会の趣旨、目的について、及び制定された要綱の概要について、また清瀬市の避難所の現況について事務局より説明を行った。

(6) 議 題

女性、要配慮者等が避難所生活において直面するであろう問題点について、意見を募った。

【委員意見】

- 子どもをもつ親が相談した際にワンストップで進むことが大事で、誰に相談するのか明確であればよいと思う。
- 被災経験がないので、問題点を出すことが難しい。被災経験者の意見があるとよい。
- 障害者の場合、環境を変えると、新たな環境への順応が難しい。そのため普段利用している施設にそれなりの備蓄品は用意していると思われるが、足りない場合は避難所の備蓄品を施設に搬送することも予想される。また、施設の職員が参集できない、という問題点もある。
- 社会福祉協議会で地域活動計画の策定のためにアンケートを行った。その中で災害が起きた時に不安なことで一番多かった回答は避難所で生活すること、次にご家族の安否、次に避難の仕方がわからない、であった。障害者、外国人、高齢者や子どもらは、避難所へ行くこと自体も困難。また、アレルギーや持病があると避難所では特に食事が困るという声もあった。そのほか同じ空間で知らない人と助け合いができるのか、特にコミュニケーションが苦手な方にとっては難しい問題である。
- 人と関わりたくない高齢者は非常に多い。こういう孤立した方が気が付いたら亡くなっていたというようなことを無くすためには、市でそうした高齢者を把握しておく必要があると考える。
- 避難所について、学校と市民センターとでは広さや部屋の数等が違うため、それぞれ別々で考えた方がよいと思う。
- 避難所が混雑しないよう在宅避難の準備を促進することも大切。しかし、在宅避難している方が、食料が無くなって体育館行っても食べ物がもらえるのか不安な声も聞いている。
- 在宅避難はとても有効なことだが、家が壊れてしまった方は避難所に行かなくてはならないので、そういった人たちのために使える物を備えるのが大事で、そういった手立てを考えていけたらと考えている。
- 本当に安心できる場所イコール備蓄品が充実した場所であると思ってるので、そういったところを皆さんにぜひ考えてもらい、結果として出せばよい。

(7) その他

- 委員長の代理の指定を行った。
- 議題に対する意見の収集を、各委員に依頼した。
- 会議録の公開について各委員に承諾を取った。
- 今後のスケジュールについて確認を行い、閉会となった。

(8) 閉 会